

有名曲線【アルキメデスの渦巻線】

- (1) $x \geq 0$ で定義された関数 $f(x) = \log(x + \sqrt{1+x^2})$ について、導関数 $f'(x)$ を求めよ。
 (2) 極方程式 $r = \theta$ ($\theta \geq 0$) で定義される曲線の、 $0 \leq \theta \leq \pi$ の部分の長さを求めよ。

< '02 京都大 >

【戦略】

- (1) 導関数の計算においては All or Nothing です。
 (2) 直交座標系の方が慣れ親しんでいると思いますので、極方程式を直交座標 (x, y) に関する方程式に書き換えます。

原点が極である場合、極座標 (r, θ) と直交座標 (x, y) を対応付ける関係は

$$\begin{cases} x = r \cos \theta \\ y = r \sin \theta \end{cases}$$

であり、今回の $r = \theta$ という極方程式は

$$\begin{cases} x = \theta \cos \theta \\ y = \theta \sin \theta \end{cases}$$

というパラメータ表示で表せます。

パラメータ表示された曲線の長さについては

$$\int_0^{\pi} \sqrt{\left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2} d\theta$$

で仕留めます。

今回は $\left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2 = 1 + \theta^2$ となりますから

$\int_0^{\pi} \sqrt{1 + \theta^2} d\theta$ を計算することになります。

部分積分をかますと、 $\left[\theta\sqrt{1 + \theta^2}\right]_0^{\pi} - \int_0^{\pi} \frac{\theta^2}{\sqrt{1 + \theta^2}} d\theta$

これを $\pi\sqrt{1 + \pi^2} - \int_0^{\pi} \frac{1 + \theta^2 - 1}{\sqrt{1 + \theta^2}} d\theta$ と見てやれば

$$\int_0^{\pi} \sqrt{1 + \theta^2} d\theta = \pi\sqrt{1 + \pi^2} - \int_0^{\pi} \sqrt{1 + \theta^2} d\theta + \int_0^{\pi} \frac{1}{\sqrt{1 + \theta^2}} d\theta$$

と、同形出現により

$$2 \int_0^{\pi} \sqrt{1 + \theta^2} d\theta = \pi\sqrt{1 + \pi^2} + \int_0^{\pi} \frac{1}{\sqrt{1 + \theta^2}} d\theta \text{ ですから}$$

結局は $\int_0^{\pi} \frac{1}{\sqrt{1 + \theta^2}} d\theta$ の計算ということになります。

この積分は (1) の結果が強力に効いてきます。

【解答】

$$\begin{aligned} (1) f'(x) &= \frac{(x + \sqrt{1+x^2})'}{x + \sqrt{1+x^2}} \\ &= \frac{1 + \frac{2x}{2\sqrt{1+x^2}}}{x + \sqrt{1+x^2}} \\ &= \frac{\sqrt{1+x^2} + x}{\sqrt{1+x^2}(x + \sqrt{1+x^2})} \\ &= \frac{1}{\sqrt{1+x^2}} \dots \text{㊦} \end{aligned}$$

(2) この曲線上の点 (x, y) は直交座標系において

$$\begin{cases} x = \theta \cos \theta \\ y = \theta \sin \theta \end{cases} \quad (0 \leq \theta \leq \pi)$$

で与えられる。

$$\frac{dx}{d\theta} = \cos \theta - \theta \sin \theta, \quad \frac{dy}{d\theta} = \sin \theta + \theta \cos \theta$$

$$\begin{aligned} \left(\frac{dx}{d\theta}\right)^2 + \left(\frac{dy}{d\theta}\right)^2 &= (\cos \theta - \theta \sin \theta)^2 + (\sin \theta + \theta \cos \theta)^2 \\ &= 1 + \theta^2 \end{aligned}$$

求める長さを L とすると

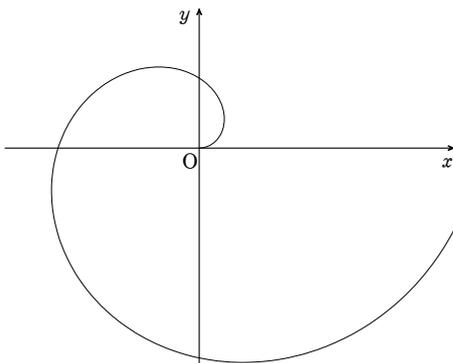
$$\begin{aligned} L &= \int_0^{\pi} \sqrt{1 + \theta^2} d\theta \\ &= \left[\theta\sqrt{1 + \theta^2}\right]_0^{\pi} - \int_0^{\pi} \frac{\theta^2}{\sqrt{1 + \theta^2}} d\theta \\ &= \pi\sqrt{1 + \pi^2} - \int_0^{\pi} \frac{1 + \theta^2 - 1}{\sqrt{1 + \theta^2}} d\theta \\ &= \pi\sqrt{1 + \pi^2} - \int_0^{\pi} \sqrt{1 + \theta^2} d\theta + \int_0^{\pi} \frac{1}{\sqrt{1 + \theta^2}} d\theta \\ &= \pi\sqrt{1 + \pi^2} - L + \left[\log(\theta + \sqrt{1 + \theta^2})\right]_0^{\pi} \quad (\because (1)) \\ &= \pi\sqrt{1 + \pi^2} - L + \log(\pi + \sqrt{1 + \pi^2}) \end{aligned}$$

ゆえに、 $2L = \pi\sqrt{1 + \pi^2} + \log(\pi + \sqrt{1 + \pi^2})$

$$L = \frac{\pi\sqrt{1 + \pi^2} + \log(\pi + \sqrt{1 + \pi^2})}{2} \dots \text{㊦}$$

【総括】

極方程式 $r = a\theta$ で表される曲線は「アルキメデスの渦巻線」と呼ばれる有名曲線です。



今回の弧長 L については(1)のヒントがなかったら難問です。

$\int \sqrt{1+x^2} dx$ という形の積分に対してはアプローチの仕方は様々です。

これについては、

実践演習：双曲線の絡んだ面積

において詳細を解説しています。

なお、(1)の結果を活かす今回の計算過程で現れた

$$\int_0^\pi \frac{1}{\sqrt{1+x^2}} dx$$

についてはノーヒントであった場合、次のように式変形することで解くことができます。

【ヒントに頼らずに解いてみる】

$$\int \frac{1}{\sqrt{1+x^2}} dx = \int \frac{\frac{1}{\sqrt{1+x^2}}}{\frac{1}{1+x^2}} \cdot \frac{1}{1+x^2} dx$$

この一連の式変形のカラクリは後述します。

$$\int \frac{\frac{1}{\sqrt{1+x^2}(1+x^2)}}{\left\{1 + \frac{x}{\sqrt{x^2+1}}\right\} \left\{1 - \frac{x}{\sqrt{x^2+1}}\right\}} dx$$

$t = \frac{x}{\sqrt{x^2+1}}$ とおくと、

$$\begin{aligned} dt &= \frac{\sqrt{x^2+1} - \frac{x^2}{\sqrt{x^2+1}}}{x^2+1} dx \\ &= \frac{1}{\sqrt{x^2+1}(x^2+1)} dx \end{aligned}$$

よって、

$$\begin{aligned} \int \frac{1}{\sqrt{1+x^2}} dx &= \int \frac{1}{(1+t)(1-t)} dt \\ &= \frac{1}{2} \int \left(\frac{1}{1+t} + \frac{1}{1-t} \right) dt \\ &= \frac{1}{2} \{ \log(1+t) - \log(1-t) \} + C \quad (C \text{ は積分定数}) \\ &= \frac{1}{2} \log \frac{1+t}{1-t} + C \end{aligned}$$

$$\frac{1+t}{1-t} = \frac{1 + \frac{x}{\sqrt{x^2+1}}}{1 - \frac{x}{\sqrt{x^2+1}}} = \frac{\sqrt{x^2+1} + x}{\sqrt{x^2+1} - x} = (x + \sqrt{x^2+1})^2$$

ゆえに、

$$\begin{aligned} \int \frac{1}{\sqrt{1+x^2}} dx &= \frac{1}{2} \log(x + \sqrt{x^2+1})^2 + C \\ &= \log(x + \sqrt{x^2+1}) + C \end{aligned}$$

【カラクリの種明かし】

$\int \frac{1}{\sqrt{1+x^2}} dx$ の形を見て、 $x = \tan \theta$ と置換したくなった人も多いかと思
います。

この置き換えだと、

$$\int \frac{1}{\sqrt{1+\tan^2\theta}} \cdot \frac{1}{\cos^2\theta} d\theta = \int \frac{1}{\sqrt{\left(\frac{1}{\cos\theta}\right)^2}} \cdot \frac{1}{\cos^2\theta} d\theta$$

となります。

しかし、 $\sqrt{A^2} = |A|$ と、単純に $\sqrt{O^2}$ を処理するわけにはいきません。

ただ、細かいことを抜きにすれば、 $\int \frac{1}{\cos\theta} d\theta$ という形がこの積分の難
しさを司っている部分だとわかるでしょう。

$\int \frac{1}{\cos\theta} d\theta$ は

$$\int \frac{\cos\theta}{\cos^2\theta} d\theta = \int \frac{\cos\theta}{(1+\sin\theta)(1-\sin\theta)} d\theta$$

と見て $t = \sin\theta$ と置換することで、 $\int \frac{1}{(1+t)(1-t)} dt$ となります。

$x = \tan\theta$ という置き換えをすると、 $\sqrt{O^2}$ の処理で困ってしまいましたが、「じゃあ置き換えずにやっしまえ」というのが発想の素です。

$x = \tan\theta$ とおいたとき、これも細かいことをぬきにすれば

$$\cos\theta = \frac{1}{\sqrt{1+x^2}}, \quad \sin\theta = \frac{x}{\sqrt{1+x^2}}$$

で、 $dx = \frac{1}{\cos^2\theta} d\theta$ であり、 $d\theta = \cos^2\theta dx = \frac{1}{1+x^2} dx$ に相当します。

ですから、 $\int \frac{\cos\theta}{\cos^2\theta} d\theta$ は

$$\int \frac{\frac{1}{\sqrt{1+x^2}}}{\frac{1}{1+x^2}} \cdot \frac{1}{1+x^2} dx$$

と見えるわけです。

次の一手である $\int \frac{\cos\theta}{(1+\sin\theta)(1-\sin\theta)} d\theta$ は

$$\int \frac{\frac{1}{\sqrt{1+x^2}(1+x^2)}}{\left\{1 + \frac{x}{\sqrt{x^2+1}}\right\} \left\{1 - \frac{x}{\sqrt{x^2+1}}\right\}} dx$$

に相当します。

この後の $t = \sin\theta$ という置き換えは当然 $t = \frac{x}{\sqrt{1+x^2}}$ という置き換えに

相当します。